

資源循環型施設建設に関する説明会（秋和自治会）【概要】

日時：令和2年8月23日（日）

午後2時から午後3時48分まで

場所：上田市秋和児童センター

○出席者

・秋和自治会住民	50人
・その他地域住民	1人
計	51人

・行政側 土屋広域連合長、井上上田市副市長ほか関係職員 計14人

・報道機関 信濃毎日新聞、信州民報、上田ケーブルビジョン
週刊うえだ 4社

○説明会の内容

あいさつ、出席者の紹介、資源循環型施設建設についての説明、質疑応答、その他

○主な質問・意見内容

□（発言）

- ・ 諏訪部自治会の合意無くして、環境影響評価を実施して良いものか。
- ・ 諏訪部自治会に対する土屋連合長の働きかけについて教えてほしい。

■（回答）（土屋連合長）

- 平成30年4月9日の市長就任以降、諏訪部自治会に出向き、市長懇談会、サテライト市長室、全戸訪問、住民説明会等を行ってきた。その後も、検討委員会への参加依頼、検討経過の報告のため、役員を訪ねる等の取組を行ってきた。
- 令和2年8月11日にも住民説明会の開催に向けた協力依頼を行った。
- 令和2年9月6日には、諏訪部地域住民説明会を行う予定。諏訪部地域では自治会としての協力は得られていないが、これまでも「資源循環型施設建設について知りたい」、「地域振興策について何かないか」という話を地域住民の皆様から直接お聞きしている。

□（発言）

- ・ アパート経営をしているが、ごみ焼却施設が近隣に建設されれば風評被害もある。
- ・ アパート周辺の道路について、小さな子どもも利用するため、何年も前から整備を依頼しているが対応していただけない。
- ・ 建設候補地周辺で生活している住民の意見を重要視してほしい。

■（回答）（両角事務局長）

- 資源循環型施設が建設された場合にはパッカー車も通行するため、道路整備も含めて総合的に地域の課題解決や振興策を検討していく。
- 資源循環型施設が建設されたことで、まちづくりが進んだと言われるような施設を目指したい。
- 今後は地域の皆様のご要望をお聞きする機会も設定したい。

□（発言）

- ・ 広域連合管内の他の市町村への要請の状況を知りたい。
- ・ 迷惑施設がなぜ秋和地域に来るのかについて、地域振興も含めて住民が納得できる説明をしてほしい。

■（回答）（土屋連合長）

- 広域連合管内において上田市のごみ排出量が全体の約80%以上を占めていることもあり、上田市としても責任を持って対応していく。
- 諏訪部、秋和地域の皆様には、生活を支える重要な施設を受け入れていただけてきたことについて、改めて感謝申し上げます。
- いわゆる迷惑施設の分散という点では、清浄園のし尿処理について、東御市は東御市、長和町と青木村は長和町で処理をしており、現在、清浄園を利用しているのは上田市のみとなっている。上田市のし尿処理についても、下之条の南部終末処理場敷地内にし尿前処理下水道投入施設を整備する計画であり、下之条自治会のご理解をいただきながら協議を進めている。また、不燃物処理施設についても資源循環型施設（統合クリーンセンター）に併設しない方針に見直した。最終処分場についても資源循環型施設を建設しない市町村に整備する方針となっている。
- 地域振興策については、地域課題の解決、周辺地域の整備により、地域価値の向上を実現していきたい。

□（発言）

- ・ 生ごみ資源化施設を建設する場合、秋和地域以外にしてほしい。
- ・ 資源循環型施設における災害廃棄物処理については、他地域も含めて広域的に受け入れても良いのではないか。
- ・ 昨年の東日本台風の千曲市における被害状況を考慮すると矢出沢川の護岸工事を検討すべきだがどうか。

- ・ 実際に資源循環型施設が防災拠点として機能すれば、地域住民の安全・安心に繋がる。
- ・ 建設合意後になるが、施設の使用期間についても書面等を地元と取り交わしてほしい。

■ (回答) (山口部長)

- 使用期間については要望としてお受けする。

■ (回答) (北島室長)

- 資源化施設については、市が廃棄物処理審議会に諮問する以前に、資源循環型施設検討委員会の皆様との議論において、当該地域には処理施設が集中しており、生ごみリサイクルについて、これ以上の施設集中をしないことが大前提として確認されており、その前提により審議会で審議されている。

■ (回答) (佐藤室長)

- 上田地域内で発生した災害廃棄物は、基本的には圏域内の施設で処分するが、処理能力以上の災害廃棄物が発生した場合は、他地域に処理を依頼する可能性もある。逆に、他地域から災害廃棄物の受け入れについて依頼された場合には、地元の皆様と協議をさせていただき、上田地域における廃棄物処理に影響がない範囲で対応を検討したい。
- 河川整備については、河川全体での対策が重要となるため、関係機関に検討をお願いしていく。
- 災害は水害以外に地震等も想定される。現在、災害対策本部の設置場所としては市役所本庁舎、健康プラザ等が想定されるが、市街地が建物の崩壊等で車両等が通行困難となった場合には、資源循環型施設が災害支援物資等の拠点となるなども想定される。災害の種類によって防災拠点としての役割が変わってくるため、様々な場合を想定し検証していく。

□ (発言)

- ・ アクアプラザの北側で農業をやっているが、施設完成後もその場所で引き続き農業を継続できるか。
- ・ 環境物質のデータについて、施設建設前後を比較する資料を提示してほしい。
- ・ 災害に強い施設の建設、河川の治水対策等を網羅した検討をお願いしたい。

■ (回答) (佐藤室長)

- 現在の上田、丸子、東部クリーンセンターにおいても、排ガス中の有害物質の排出量を測定している。
- 上田クリーンセンターでは、地元自治会の要望により平成28年度からダイオキシン類について大気と土壌の調査を実施している。
- 環境影響評価を実施したうえで、施設建設の前後のデータをお示しする。施設稼働後も事後調査も実施する。

□（発言）

- ・ 生ごみリサイクル推進プランの速やかな実施を期待しているが、プランの実効性についてはどうか。
- ・ 実際に家庭の中で、ごみ減量に携わっている方に向けた働きかけが重要だ。

■（回答）（北島室長）

- 今後、市民の皆様に協力を求めていくことになるが、理解から実践に進むように促したい。
- 各家庭で抱える事情や考え方の違いもあるので、生ごみの分別を毎回しなければならないという義務感を負うことなく、小さな取組の積み重ねを市民全体で認め合うことが重要だ。

□（発言）

- ・ 秋和自治会も南部耕作者組合も基本的には建設に反対の立場だ。
- ・ 自治会がどんな問題を抱えているのかを把握し、メリットがある計画でなければ施設建設に賛成とはならない。

■（回答）（佐藤室長）

- 施設建設を契機としたまちづくりについて、今後、定期的に話し合いをする場や組織を設けさせていただき、その中で地域の皆様のご意見を聞きながら施設建設に併せ地域が抱えている課題についても一緒に解決できるよう取り組んでいく。

□（発言）

- ・ 自主基準値の事例があるが、現況はどのように決めているのか。また、自主基準値について詳しく教えて欲しい。

■（回答）（佐藤室長）

- 近隣施設においては、法規制値よりもさらに厳しい自主基準値を設定している。自主基準値は県へ届け出ることによって、法律と同じ拘束力があるため、この数値を超過しての施設運営はできなくなる。
- 資源循環型施設の自主基準値については、今後、地域の皆様と協議して決定していく。

□（発言）

- ・ 土屋連合長においては行政の責任者として、就任直後の決意をこの場でもう一度表明してほしい。
- ・ これからも地域住民の先頭に立って、取組を継続してほしい。

■（回答）（土屋連合長）

- 西部地区全体の説明会を9月27日、広域連合圏域全体を10月1日、5日に予定している。さらに、この日程以外であっても、他の市町村から要望があればしっかり対応をしていく。
- 就任当初の思いを忘れずに取り組んでいく。

○まとめ

□（土屋広域連合長）

- ・ ご意見ご要望については、今後の取組に活かしてまいりたい。
- ・ 広域連合として次の段階である環境影響評価を実施するが、「環境影響評価の実施」が「施設建設に対する同意」となるものではない。今後は科学的データを示しながら、丁寧に話し合いを続けていく。
- ・ 広域連合及び上田市の最優先課題として「曲げることなく覚悟を持って取り組む」決意は変わらない。
- ・ 施設の安全・安心はもちろんのこと、地域価値の向上につながる地域振興策に真剣に取り組む。